

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172200343		
法人名	医療法人社団 崇仁会		
事業所名	グループホーム 天の花		
所在地	岐阜県海津市平田町仏師川461		
自己評価作成日	平成30年10月29日	評価結果市町村受理日	平成31年3月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_2018_022_kaniTRUE&gvsvoCd=2172200343-00&efCd=21&Ver:si.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成30年12月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「天の花」は、医療と介護などの専門職員がお互いに協力し、利用者が安心して暮らせるよう日々努力しています。定期的にカンファレンスも開催し情報共有に努めています。
看護師も常駐し、在宅医療の専門医が往診に来ていただけるため、医療的管理が必要な方も安心してご利用いただけます。看取りに対する考え方やケアも充実してきました。暮らしなれた場所で最期の時を過ごせるような場所でありたいと願っています。ご家族様も訪問しやすく、遠慮のない関係性を構築したいと常に思っています。
家庭的で暖かな雰囲気と笑顔の中で、住み慣れた地域の中で、その人らしい生活を支援させていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住み慣れた地域のなかで利用者の思いを大切に、楽しめる・笑いあえる場面が増えるように、利用者の立場になり話し合いながら支援している。今年度の目標を「繋」とし、地域・利用者・家族・職員とも更に繋がりが深まるように、地域の清掃活動や行事には利用者と一緒に参加し、日常的な交流から野菜や花をもらっている。医療処置が必要な人や重度化しても看取りをし医療とも連携して、その人らしく最期が過ごせるように手厚い体制で臨んでいる。認知症カフェを定期的に開催し、講話、作品づくり、体操等も利用者が一緒に参加し、住民と交流相談にも対応している。認知症の理解に向けて街頭での啓発活動、認知症サポーター養成講座、小学生への福祉学習支援等に積極的に関わっている。職員が問題を提起し積極的に取り組めるように各種委員会を発足し、サービスの向上に向けて努力を重ねている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日のフナクリ理念の唱和と一日の出来事の共有しています。日々、全人的医療と介護の実践に向けて努力しています。	管理者は地域と繋がりながら、その人らしく楽しく暮らせているか、改善する事はないか等、話し合いながら実践に取り組んでいる。今年度の目標を「繋」として掲示し意識づけているが、理念の認識がない職員がいる。	明記している理念について、職員で振り返りや話し合いの機会をもち、理念を共有していく努力が望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年からオレンジ倶楽部カフェ天茶を開催しています。少しずつですが地域とのつながりや交流が図れるようになっていきます。また、祭りや清掃活動などにも積極的に参加しています。	小中学生の福祉学習を受け入れ、認知症や高齢者等の理解を得ながら歌やゲームで交流している。認知症カフェや神社清掃・地域行事と一緒に参加し、地域の一員として交流し住民の相談にも応じている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイト啓発活動で小学校の児童に認知症の方への接し方などの寸劇を実施しています。子供たちに伝えることで地域ぐるみで高齢者を支えていける町づくりを実践していきます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではCSアンケートの配布と結果の公表を定期的に行っています。幅広い方のご意見を頂いています。アクシデント報告もしています。お亡くなりになった方を偲ぶ時間もとっています。	家族の参加も多く現状報告し、要望を聞き意見交換している。自治会長から地域情報を聞き利用者や外出できるようにしている。ボランティア情報を得たり、独居の人のサポートができないかと話し合ったりしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	協議会や連絡会に積極的に参加しています。また、事故報告も含め、日常的に交流を持つようになっています。	業務の手続きや現状報告等に出向き、市の担当者と協力関係を築いている。市の施策委員として管理者が就任し、近隣事業所も含めて意見提案や実情報告をしている。市の委託で認知症カフェを定期開催している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する指針の読み合わせや委員会を設置し定期的に会議を開いています。拘束をしなければ事故が起きてしまう考え方を無くし、安全とは何か？拘束をしないケアとは？を会議を通して伝えています。	定期及び随時に委員会を開催し、本人及び家族への説明と共に職員研修を実施し、言葉の制止も含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる。安全を優先して車イス利用とせず、歩くことのリスクを家族に説明し、見守り体制で職員も意識を高めつつ支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段から皮膚の状態を観察しています。また、入浴時・更衣時にもしっかりと観察できていると思います。内出血や皮膚剥離などがあれば速やかに報告できています。スキンケアの見直しも行っています。		

グループホーム 天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフ全員が権利擁護に関する研修会に参加し、研修報告としてカンファレンスなどで発表できるようにしていきたいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い同意を得ていましたが、契約などに来られない家族様からの苦情や問い合わせが多い時は、再度しっかり説明と同意を得るように心がけています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の来所時に個人的に話ができる時間を設け、意見・提案を聞くようにしています。世間話の中から聞けることもありますのでご家族様との交流も大切にしています。	家族の手作り紙芝居を披露したい要望をクリエイションに取り入れた。毎日メール希望の家族には毎日、来所が少ない家族にはメールや電話で利用者の様子を伝え希望を聞いている。アンケート意見も取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なカンファレンスの他に個人面談を実施しています。運営に関することでの意見を取り入れることは現場の声を聞く。という面でも重要です。また業務改善委員会も立ち上げました。	業務内や会議にて、意見を出し検討している。上司や同僚と気軽に相談や話せる関係ができています。職員からの要望は優先順位にて対応する場合もある。現場の意見をより反映できるよう委員会を設置した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいを持って楽しく働ける職場作りになるよう研修システムや就業環境の整備に努めています。労働時間に関しては残業のないよう日々、工夫しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	性格も考慮し、適切な声掛けに努めています。本人にあった研修への声かけやスキルアップを目指した研修参加を進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	多職種連携の勉強会やグループホーム協議会や各連絡会などの研修会に参加し、意見交換の場にしていきます。		

グループホーム 天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントシートを活用し事前訪問を実施しています。生活環境や生活歴などの話をゆっくりと聞き利用者の思いをお聞きしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設利用に至る経過を含め家族様等からの問い合わせや相談ごとは、施設長と看護師で対応しています。また、その先についても話し合える関係性づくりも心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族様両方の相談内容と要望をお聞きしています。内容をしっかり把握してサービス提供につなげています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、なじみの関係性が出来るよう支援しています。いつもと変わらない関わりの中で業務的な関わりをしないよう心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	小さなことであっても、お互いに情報共有をしています。また、家族様側のお話も聞く時間をもち日々の思いを聞き取るようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までお付き合いのあった友人は積極的に来所いただき、交流が途切れないようにしています。友達交流は外出支援にもつながるように実践していきたいです。	携帯電話の充電支援や手紙の宛名を確認し、馴染みの人との関係が継続できるようにしている。喫茶店や神社清掃で馴染みの人と話ができる機会を作っている。友人に面会に来てもらったり、送迎したりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の空間や時間を共有することでリビングで過ごす時間を持って頂いています。憩いの場が提供できています。		

グループホーム 天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまで築いてきた関係性を大切にしたいと考えております。グリーンケアなど、遺族が集まれる会を作れたら・・・と思っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方の思いを把握して、なかなかご本人の希望に沿ったケアは行えていないように感じています。本人本意ではなく職員本意である動きが課題です。	就寝前にビールが飲みたい、女子会で話したいの意向を聞き希望に合わせている。正月は雑煮・金粉入り酒で祝っている。困難な人には、態度や顔つき・食事量等から推測し、家族に生活歴を聞き把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	施設に入ると社会との交流まで閉ざされる傾向があるため施設事態がオープンであるよう心がけています。アセスメントシートではご本人の暮らしをお聞きするようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事の提供時間や入浴などはこちらの段取りでお願いすることが多いです。心身状態は常に観察し、必要であれば看護師に報告するなどしています。医師のサポートはしっかり連携できています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	運営推進会議やご家族様の面会時などに近況報告し話し合いの場を設けるようにしています。出来るケアや今後、起こりうるリスクについてもお話するようにしています。	医師の助言も得て、本人・家族の意向を聞き介護計画を作成している。介護記録・フローシートの記録や会議時に話し合い毎月評価表を作成し、必要時は見直している。計画の支援内容を毎日記載している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録やフローシートにその日の様子を記入しています。用紙をみれば一日の様子がわかるよう工夫しています。毎朝、ミニカンファレンスを実施し日々のケアに生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	なかなか柔軟な対応が出来ていないのが現状です。多機能的な関わりが課題です。ニーズに応える取り組みが今後も必要です。		

グループホーム 天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の図書館・文化祭・お千代保さん・左義長など地域の施設や行事に参加しています。外出時の体調管理にも気を付けています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は利用者様の安全・安心に繋がっています。希望された時や必要に応じた医療が受けられるよう配慮しています。	入居時に協力医に変更する人が多い。かかりつけ医を受診時は、家族に書面を渡し受診後に報告を受けている。医師とFAXや電話で連携もしている。希望により歯科医師や鍼灸師に来てもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は常に利用者様の健康に留意し、いつもと違う時はすぐに報告しています。適切な段階で看護介入できています。医療との連携は速やかに図れています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病棟看護師や相談員との連携を図っています。また、看護要約などの情報提供を行い、切れ目のない関わりが出来るよう心がけています。退院時カンファレンスも開催しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り体制に入られる方に関しては本人、ご家族と十分な話し合いの場を持ち、お互いが納得、同意できるよう説明しています。ご本人の安楽を優先して考えています。チームで看取りケアを実施しています。	入居時から本人や家族と話し合い、状態に合わせて医師から説明している。「看取り介護実施の定義」で説明し、同意書をもっている。統括・介護責任者を決め看取り介護計画にて、職員研修で方針を統一している。家族や他の利用者も一緒に看取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故や急変時は速やかに対応、報告が出来るよう心がけています。また、カンファレンスなどで急変時の対応の勉強会を開いています。その後の事例検討会も実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施しています。夜間対応に関する訓練が出来ておらず、今後、早急に実施します。	非常階段を使用し避難訓練を行い、実施後に反省点を話し合っている。水・食料・停電用ボンベやランタンを常備している。住民の協力を要請しているが参加が得られていない。又、夜間想定訓練が実施できていない。	様々な機会に住民の協力を継続的に依頼し、夜間想定訓練を実施されたい。

グループホーム 天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手を傷つける言い方には注意していますが、プライバシーを損ねかねない場面も見受けます。職員同士がしっかりと注意しあえる関係作りが必要だと感じています。	利用者に合わせた言葉かけや丁寧な言葉遣いに心がけている。その人のペースを尊重し、待つ姿勢で見守り、手を出し過ぎない支援をしている。写真使用や居室の表札は、本人や家族の同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人のニーズをできる限りケアプランに載せて実行できるよう工夫しています。また、自己決定できる環境作りも大切だと感じています。自立支援としては課題があります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のリズムに合わせたケアを心がけていますが、職員側の都合で支援してしまう時があります。今後の課題だと感じています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品やマニキュアでお洒落を楽しんだり、ヘアスタイルをご自分で決めていただいたり。その人らしさを大切にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しい時間となるように、食への工夫は実践しています。定期的にライブキッチンを開催し、好きなものや温かい食事の提供を心がけています。出来ることは極力手伝っていただけるようにしています。	旬の食材で行事食や希望を取り入れた献立にしている。材料切り・皮むきや面取り等のできることをしてもらい、干し柿・梅酒・漬け物づくりを一緒にしている。味付けや調理法等を話題にして楽しい時間になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	採血データを踏まえ、医療的な管理のもと、食事量・水分量を個別に配慮しています。適切な栄養管理を行っていきたいと思っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアや生活習慣に合わせた歯磨き、の実施はできています。必要に応じて訪問歯科を活用しています。		

グループホーム 天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体機能に合わせながら可能な限りトイレでの排泄を促しています。排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努めています。	排泄パターンを把握し、トイレ排泄ができるよう二人介助の支援もしている。その人に適した下着やパッドの検討、トイレ誘導の声かけ、ポータブルトイレの使用等、昼夜とも個々の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝のラジオ体操や個々に沿った便秘予防に努めています。また、排便困難時は、看護師と相談し服薬等に対応しています。本人の合った排便コントロールを実践しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	生活リズムなどに配慮しバイタルサインの測定値を確認・体調確認を行い入浴しています。曜日を決めて温泉にも入ってもらい楽しい時間作りに努めています。タイミングは職員本意と感ずることが多いです。	入浴順・湯温・入浴剤やシャンプー等は、利用者の希望に合わせている。みかん・檜杉・柚・菖蒲湯や温泉湯で楽しみ入浴になるようにしている。体調に合わせ3人介助、手・足浴、清拭等をしている。嫌がる人には声かけを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後の昼寝や本人の就寝した時間を考慮するようにしています。季節ごとの空調管理も行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は看護師が行っています。準備された薬を2名の介護職員が氏名・服用時間を確認し予薬を行っています。薬の影響・副作用など理解が必要なため看護師から説明を受けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味などを把握して出来ることをアセスメントしています。日常生活の中で出来ないことは、さりげなく職員が行い、不快のないよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望に沿って散歩等の外出が出来るよう支援しています。また、ご家族が来所されたときは中央ホールでの食事提供など施設をオープンにして、どこでもくつろげるような支援に努めています。	朝夕の散歩、野球観戦、買い物、喫茶店や図書館等利用者の希望に添い外出支援をしている。近隣の祭や行事、花見、公園等に年間計画にて毎月出掛けている。家族の協力を得て、自宅や美容院に行く場合は、車の乗降時や排泄状況等の注意点を伝えている。	

グループホーム 天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その人に応じて金銭を管理してもらっています。ただ、紛失や物とられ妄想などの不都合が起きたときはご家族様と十分に検討するようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて随時対応しています。携帯電話などの持参も可能です。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が味わえる飾り物や観葉植物を飾ったり、アロマを焚いて香りの空間を大切にしています。 心地よく暮らしていただけるよう心がけています。	窓際や廊下にソファやイスを置き、新聞や本を読んだり会話したり、中庭のチャボを眺めたりと自由にくつろげるようにしている。アロマオイルで臭気に配慮し季節の花を生け、音楽を流して穏やかな雰囲気になっている。書道や絵手紙等の作品を掲示し話が膨らむ支援をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	心地よく過ごしてもらえる環境作りを心がけています。また、気の合った利用者同士で会話ができる場所の提供に努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、なるべく馴染みのある物を持ってきていただき落ち着ける空間作りができるよう工夫しています。	自宅と似たような居室になるように、家族にも協力を得ている。TV・ラジオ・冷蔵庫や化粧品等を置き、作品や色紙を飾っている。自分の思いを毎日メモ書きしたり脳トレしたり、その人らしく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存能力をアセスメントして安全・安心に日常生活が送れるよう支援しています。歩行に関してもご家族様に説明、同意を得て、できる限り自力歩行ができるよう工夫しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172200343		
法人名	医療法人社団 崇仁会		
事業所名	グループホーム 天の花		
所在地	岐阜県海津市平田町仏師川461		
自己評価作成日	平成30年10月29日	評価結果市町村受理日	平成31年3月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/21/i/index.php?act=ion_kouhyou_detail_2018_022_kani_true&aj_gvovsyoCd=2172200343-00&PrEfCd=21&Ver:si onOd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成30年12月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日のフナクリ理念の唱和と一日の出来事の共有しています。日々、全人的医療と介護の実践に向けて努力しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年からオレンジ倶楽部カフェ天茶を開催しています。少しずつですが地域とのつながりや交流が図れるようになっていきます。また、祭りや清掃活動などにも積極的に参加しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイト啓発活動で小学校の児童に認知症の方への接し方などの寸劇を実施しています。子供たちに伝えることで地域ぐるみで高齢者を支えていける町づくりを実践していきます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではCSアンケートの配布と結果の公表を定期的に行っています。幅広い方のご意見を頂いています。アクシデント報告もしています。お亡くなりになった方を偲ぶ時間もとっています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	協議会や連絡会に積極的に参加しています。また、事故報告も含め、日常的に交流を持つようにしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する指針の読み合わせや委員会を設置し定期的に会議を開いています。拘束をしなければ事故が起きてしまう考え方を無くし、安全とは何か？拘束をしないケアとは？を会議を通して伝えています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	普段から皮膚の状態を観察しています。また、入浴時・更衣時にもしっかり観察できていると思います。内出血や皮膚剥離などがあれば速やかに報告できています。スキンケアの見直しも行っています。		

グループホーム 天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフ全員が権利擁護に関する研修会に参加し、研修報告としてカンファレンスなどで発表できるようにしていきたいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い同意を得ていましたが、契約などに来られない家族様からの苦情や問い合わせが多い時は、再度しっかり説明と同意を得るように心がけています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の来所時に個人的に話ができる時間を設け、意見・提案を聞くようにしています。世間話の中から聞けることもありますのでご家族様との交流も大切にしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なカンファレンスの他に個人面談を実施しています。運営に関することでの意見を取り入れることは現場の声を聞く。という面でも重要です。また業務改善委員会も立ち上げました。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいを持って楽しく働ける職場作りになるよう研修システムや就業環境の整備に努めています。労働時間に関しては残業のないよう日々、工夫しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	性格も考慮し、適切な声掛けに努めています。本人にあった研修への声かけやスキルアップを目指した研修参加を進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	多職種連携の勉強会やグループホーム協議会や各連絡会などの研修会に参加し、意見交換の場になっています。		

グループホーム 天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントシートを活用し事前訪問を実施しています。生活環境や生活歴などの話をゆっくりと聞き利用者の思いをお聞きしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設利用に至る経過を含め家族様等からの問い合わせや相談ごとは、施設長と看護師で対応しています。また、その先についても話し合える関係性づくりも心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族様両方の相談内容と要望をお聞きしています。内容をしっかり把握してサービス提供につなげています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、なじみの関係性が出来るよう支援しています。いつもと変わらない関わりの中で業務的な関わりをしないよう心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	小さなことであっても、お互いに情報共有をしています。また、家族様側のお話も聞く時間をもち日々の思いを聞き取るようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までお付き合いのあった友人は積極的に来所いただき、交流が途切れないようにしています。友達交流は外出支援にもつながるように実践していきたいです。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の空間や時間を共有することでリビングで過ごす時間を持って頂いています。憩いの場が提供できています。		

グループホーム 天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまで築いてきた関係性を大切にしたいと考えております。グリーンケアなど、遺族が集まれる会を作れたら・・・と思っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方の思いを把握して、なかなかご本人の希望に沿ったケアは行えていないように感じています。本人本意ではなく職員本意である動きが課題です。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	施設に入ると社会との交流まで閉ざされる傾向があるため施設事態がオープンであるよう心がけています。アセスメントシートではご本人の暮らしをお聞きするようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事の提供時間や入浴などはこちらの段取りでお願いすることが多いです。心身状態は常に観察し、必要であれば看護師に報告するなどしています。医師のサポートはしっかり連携できています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	運営推進会議やご家族様の面会時などに近況報告し話し合いの場を設けるようにしています。出来るケアや今後、起こりうるリスクについてもお話するようにしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録やフローシートにその日の様子を記入しています。用紙をみれば一日の様子がわかるよう工夫しています。毎朝、ミニカンファレンスを実施し日々のケアに生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	なかなか柔軟な対応が出来ていないのが現状です。多機能的な関わりが課題です。ニーズに応える取り組みが今後も必要です。		

グループホーム 天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の図書館・文化祭・お千代保さん・左義長など地域の施設や行事に参加しています。外出時の体調管理にも気を付けています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は利用者様の安全・安心に繋がっています。希望された時や必要に応じた医療を受けられるよう配慮しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は常に利用者様の健康に留意し、いつもと違う時はすぐに報告しています。適切な段階で看護介入できています。医療との連携は速やかに図れています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病棟看護師や相談員との連携を図っています。また、看護要約などの情報提供を行い、切れ目のない関わりが出来るよう心がけています。退院時カンファレンスも開催しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り体制に入られる方に関しては本人、ご家族と十分な話し合いの場を持ち、お互いが納得、同意できるよう説明しています。ご本人の安楽を優先して考えています。チームで看取りケアを実施しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故や急変時は速やかに対応、報告が出来るよう心がけています。また、カンファレンスなどで急変時の対応の勉強会を開いています。その後の事例検討会も実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施しています。夜間対応に関する訓練が出来ておらず、今後、早急を実施します。		

グループホーム 天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手を傷つける言い方には注意していますが、プライバシーを損ねかねない場面も見受けます。職員同士がしっかりと注意しあえる関係作りが必要だと感じています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人のニーズをできる限りケアプランに載せて実行できるよう工夫しています。また、自己決定できる環境作りも大切だと感じています。自立支援としては課題があります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のリズムに合わせたケアを心がけていますが、職員側の都合で支援してしまう時があります。今後の課題だと感じています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品やマニキュアでお洒落を楽しんだり、ヘアスタイルをご自分で決めていただいたり。その人らしさを大切にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しい時間となるように、食への工夫は実践しています。定期的にライブキッチンを開催し、好きなものや温かい食事の提供を心がけています。出来ることは極力手伝っていただけるようにしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	採血データを踏まえ、医療的な管理のもと、食事量・水分量を個別に配慮しています。適切な栄養管理を行っていきたいと思っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアや生活習慣に合わせた歯磨き、の実施はできています。必要に応じて訪問歯科を活用しています。		

グループホーム 天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体機能に合わせながら可能な限りトイレでの排泄を促しています。排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝のラジオ体操や個々に沿った便秘予防に努めています。また、排便困難時は、看護師と相談し服薬等に対応しています。本人の合った排便コントロールを実践しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	生活リズムなどに配慮しバイタルサインの測定値を確認・体調確認を行い入浴しています。曜日を決めて温泉にも入ってもらい楽しい時間作りに努めています。タイミングは職員本意と感ずることが多いです。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後の昼寝や本人の就寝した時間を考慮するようにしています。季節ごとの空調管理も行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は看護師が行っています。準備された薬を2名の介護職員が氏名・服用時間を確認し予薬を行っています。薬の影響・副作用など理解が必要なため看護師から説明を受けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味などを把握して出来ることをアセスメントしています。日常生活の中で出来ないことは、さりげなく職員が行い、不快のないよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿って散歩等の外出が出来るよう支援しています。また、ご家族が来所されたときは中央ホールでの食事提供など施設をオープンにして、どこでもくつろげるような支援に努めています。		

グループホーム 天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その人に応じて金銭を管理してもらっています。ただ、紛失や物とられ妄想などの不都合が起きたときはご家族様と十分に検討するようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて随時対応しています。携帯電話などの持参も可能です。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が味わえる飾り物や観葉植物を飾ったり、アロマを焚いて香りの空間を大切にしています。 心地よく暮らしていただけるよう心がけています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	心地よく過ごしてもらえる環境作りを心がけています。また、気の合った利用者同士で会話ができる場所の提供に努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、なるべく馴染みのある物を持ってきていただき落ち着ける空間作りができるよう工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存能力をアセスメントして安全・安心に日常生活が送れるよう支援しています。 歩行に関してもご家族様に説明、同意を得て、できる限り自力歩行ができるよう工夫しています。		